

平成24年度「地産地消の仕事人と学ぶ・全国フォーラム」参加者アンケート集計

平成25年3月18日

(財)都市農山漁村交流活性化機構

日程 平成25年3月15日(金) 10:30~17:00
参加者 112名
回答者 26名(回収率23%)

1 仕事人・全国フォーラムの全体内容について

！非常に満足(12名:46%)

(農林漁業者)

- ・どのパートも内容が充実しており、学ぶことが多かった
- ・報告者には夢があると感じた

(行政関係者)

- ・ゼロから手探りで事業を創出した方々の話を興味深く聞いた。様々な苦労があったようだが、自分の土地や地域を愛している事が伝わってきた。まちづくりのキーワードを沢山もらった
- ・具体的な事例について、たくさん有益な話を聞くことが出来た
- ・経験談から聞く事ができたので、大変勉強になった
- ・これだけ沢山の魅力的な事例を一度に紹介してもらい、とても勉強になった
- ・実践者の体験、意見は説得力があると感じた。コーディネーターも素晴らしかった

(関係団体)

- ・仕事人の発表内容、取組姿勢など、思いが十分に伝わってきた。また、コーディネーターのとりまとめがさすがと思われた。中身の濃いフォーラムであった

(企業関係者)

- ・生々しい苦労話があり、地道な活動の状況が良く判った。事例集などの文章では伝わらないことが伝わってきた
- ・秋津野の木村さんの話が良かった

満足(13名:50%)

(行政関係者)

- ・事業形態の異なる良い事例を具体的に、苦労話も含めてたくさん聞くことができた(複数)
- ・生の話を聞くことができ、時間が足りなく感じた
- ・多様な先進事例を引っ張ってきた本人から話を聞けるのは、ためになった。
- ・萩一まーとは今後、自分の地域で計画されている事業に大いに役立つと考えられる。直接市の担当者に聞かせたい内容だった
- ・現場でゼロから携わってきた方々の生の声を聞くことができ、参考になった。成功事例の発表よりずっと胸に響いてきた。負のスパイラルに入ってしまったと、そこから抜け出るのは大変だ。初心に帰って、マーケティングに忠実



に、何を大切にすべきか（地元、農業者、住民）見直すことが大切だと思った。ありがとうございました。

（大学関係者）

- ・地産地消に取り組む人々の声を直に聞くことができた

（企業関係者）

- ・各地での取り組みや努力が色々聞けて勉強になった

普通（0名） やや不満（1名）

2 全国フォーラムの全体意見交換の内容について

非常に満足（4名：15%）

- ・様々な立場の方々の話を聞くことが出来た。質問への回答内容も大変参考になった（企業関係者）
- ・様々な立場の人選が良かった（行政関係者）

満足（14名：54%）

- ・深掘りした話は時間制限があったため出来なかったが、質問に対する回答などから参考になる話が多くあった（農林漁業者）
- ・各々違う立場から地産地消推進への取組について話を聞くことが出来て良かった（行政関係者）
- ・もっと多く意見交換が出来ればなお良かった（地産地消の仕事人）
- ・具体的な意見を詳しく聞くことができた（企業関係者）
- ・アドバイザーから多様な事例を伺うことができた（大学関係者）
- ・様々な分野の方の活動内容が聞けた
- ・参考になる意見がありよかった（フードビジネス）

普通（4名：15%）

（行政関係者）

- ・アドバイザーのコメントが、テーマの「地産地消のこれから」を離れたものだった
- ・素晴らしい方々が揃っていたが、それぞれ十分に話を聞けず残念。100分の時間にしてはテーマが大きすぎたのではないか。前段報告のあった事例を深く掘り下げる、様々な立場の方々から違った視点の見解を聞けたら広がりが出て面白かったのではないか。
- ・幅広く意見をもらえたが、互いの意見に踏み込む機会も欲しかったか
- ・登壇者が多くて議論が深まらなかった

やや不満（2名：8%）

- ・登壇者の議論があればなお良かった（関係団体）



3 地産地消の推進において、どのような課題・問題があると思われますか

(地産地消の推進役となる人材育成)

- ・推進の核となるような人材の育成
- ・地域の核となる人がいるかないかで、地産地消が進む。ある意味個人の力で左右されてしまう。
- ・経営計画、マーケティングができる人材の不足
- ・リーダーの育成、交流の拡大の仕組みづくり、行政支援
- ・簡単、便利、安価ムード・ニーズも未だあり、それに向けた商品が大手メーカーから販売される世の中で、地産地消の必要性を定着させるための継続的活動。既製品と地場産物利用のバランス・両立。義務教育期間における地産地消の目的等(実体験を含む)の教育の徹底。地産地消コーディネーターのより積極的な育成。地域連携リーダーや地産地消コーディネーターを地域1名以上必須配置。

(消費者・実需者の意識改革)

- ・産地はどうしても出荷出来ない時期があるが、いつでも物があると思っている消費者が多い
- ・他地域から人を呼ぶことも良いが、地元の既存の店を地産地消で元気にすることも大切だ
- ・ある程度計画的に生産できる農畜産物は地産地消から6次産業化へ持っていきやすいが、日により獲れる量だけでなく種も変わる水産業は、どのような形で消費者に理解してもらうか難しい。例えば、アジが食べたいと冬に来ててもアジは獲れない。また、九州で鮭が食べたいという無知な人も多い。そのような人たちにどう伝えていくか。とても大きな課題である。
- ・地域ごとの活躍とともに、TPPをはじめ流通万能主義に対する怖さの啓発も大衆に向けて行っていくことが必要だ

(地産地消におけるコストや効率の問題)

- ・経済状況が厳しい中、地場産のものを食べたくとも価格的に安価な外国産を選択せざるを得ない人達も沢山いる。誰もが自分の土地のものを食べたいと思っている中で残念だ
- ・地産地消で給食に利用する場合の価格の問題、加工技術等
- ・良質な農産物はたくさん生産されていても、消費の中心はスーパーなどの量販店であり、価格や安定供給などの面から地場産ではなく他県産が多い。また、そのため消費者が地元農産物を知る機会も少なく、一層地消につながらない
- ・地産地消で日本全体としてのバランスは大丈夫なのか
- ・既存の流通(系統)を含め、どう変わっていくのかの戦略・展望を作りたい
- ・地産地消=直売所の話題に終始していて、情報に偏りを感じた。直売所以外の話題も聞きたかった。流通事情の今後の課題(コスト高・人材不足)などの参考情報が加わるとまた違う視点も生まれると思う。

(地産地消に関する地域の合意形成)

- ・地産地消は目的ではなく手段とした時の地域コンセンサスの作り方
- ・北川さんのお話の通り、地域コミュニティの再構築のために地産地消や6次産業化を進めるのだという意識の共有が課題

- ・地元住民の理解が少ない
- ・品質意識を持っていない農家が多い

(直売所間の競合・競争)

- ・農産物直売所間の競争が激化している
- ・大きな勢いで生産者の高齢化が進んでいる。今後、直売所をどうやって維持していくのか。
- ・道の駅、直売所の運営効率化
- ・生きがいをも目的化とし、売上が減少しても



問題意識をもたない直売所への対策

(行政等の支援・意識改革)

- ・新たな事業を始める時、行政・JAに頼らざるを得ない場合、柔軟な対応を得られないこと
- ・行政の役割（本日の話の中では行政が入るとあまり良くないという話題が多かったが）

4 その他のご意見・ご感想について

(農林漁業者)

- ・とても充実した時間を過ごすことが出来た。この機会を作って頂きありがとうございました
- ・毛賀澤さんの言う通り、地産地消を継続していくためにも「仕事人の連携」は必要。このような集会を定期的実施して欲しい。また、成功・失敗事例の情報をまとめたサイト（会員限定でもOK）があればさらに良い。
- ・全体的に勉強になった。また参加したい

(行政関係者)

- ・今後も「地産地消の仕事人」の事業制度は継続して欲しい
- ・仕事人の活動内容、成果、課題、ノウハウなどをまとめた本を作って欲しい
- ・行政としてできる部分は少ないが、取り組めるところから支援していきたい
- ・忌憚なく、侃々諤諤を恐れずに取り組んでいくテーマだと思っているので、地産地消のために頑張りたい
- ・自分の活動方針に自信が持てた。またこのような機会があると本当に嬉しい
- ・せいわの里や秋津野もそうだったが、水産・特に漁村は少量多品種の文化。その大きな役割を町の魚屋が果たしていたが、スーパーに押され、減少している。残った魚屋もスーパーと同じことをしており、それではなくなるだけ。対面販売が大事だという意見が出ていたが、本来魚屋はその役割を持ち、魚や魚料理の先生でもあった。八百屋も本来そうだったのではないかと思うが、この町の売店の再生が大きなカギになると思っている

(企業関係者)

- ・地元のお宝をもっと全国に知らせる必要があると思う。全国に知ってもらうことでその地域のPRや観光につながると思う
- ・本日選ばれた事例やパネリストは総括にふさわしい方々だったと思った。それぞれの熱い思いが伝わってきて感動すら覚えた

(企画内容などへの意見)

- ・参加者名簿が欲しかった（関係団体）
- ・全体的に年齢層が高く、次世代へのバトンをつなぐという観点からももう少し若手の参加しやすい雰囲気づくりも必要かと思った（フードビジネスプロデューサー）
- ・すべての事例が興味深かったので、もっとゆっくり各事例が聞きたかった（行政関係者）
- ・少し内容を詰め込みすぎかもしれない（行政関係者）

